

PubMed における COVID-19 撤回論文に関する検索結果の違い

井上 陽路

東京慈恵会医科大学 学術情報センター 図書館

【背景】

2022 年に行われた第 6 回 JMLA 学術集会での自身の研究発表で、調査対象となった撤回論文に検索漏れが発生しているのではないかという指摘を受けた。そこから、実際にはどのくらい検索漏れが発生しているのか、また検索から漏れてしまった論文には共通する特徴があるのではないかと考えた。検索から漏れた論文の特徴を知ること、今後の自身の業務に生かしていけるのではないかと思い、本調査を実施した。

【目的】

- ① MeSH のみで検索をした場合とそうでない場合の検索漏れ数を調査する。
- ② 検索漏れの論文にはどのような特徴があるのかを調査する。

【方法】

PubMed 上で「(covid 19[MeSH Terms]) × (retracted publication[Publication Type]) × (2020/01/01-2023/04/01[Date-Publication])」の検索式を用いて検索をしたものを「① MeSH のみで検索をしたもの」とした。

次に、PubMed 上で「[(covid 19[MeSH Terms]) or ("COVID-19"[Title])] × [(retracted publication[Publication Type]) or (retract*[Title])] × (2020/01/01-2023/04/01[Date-Publication])」で検索したものを「② MeSH + タイトルにキーワードが含まれる場合」とした。①と②の論文の特徴や差異を、書誌事項を中心に調査した。

【結果と考察】

①の検索結果は 55 件であり、全て撤回論文であった。②の検索結果は 233 件であり、そのうち撤回論文は 102 件、撤回通知は 92 件、撤回論文ではない論文が 36 件、その他が 3 件であった。

②の撤回論文のうち、①に含まれない 47 件（③とする）について調査をしたところ、①の論文では撤回までの日数が平均で 263 日であったのが、③では 208 日と短かった。また、①において、MEDLINE 収載誌でないものが 1 論文であったのに対して、③では 29 論文と多かった。

②では撤回論文ではあるが撤回の表記がなされていないもの、撤回通知は検索結果としてヒットするが、元の論文には撤回の表記がないものや元の論文をたどれないものもあった。MeSH のみで検索を行うと漏れが多く発生してしまうが、キーワードで検索をかける場合には論文に対する情報が不十分なこともあり、利用の際に吟味が必要だと思われる。